

「えのくま日記」三十七号

平成二十六年三月　　平成二十六年五月

「こどもの日、お祝い集会」

武生 香里（年長なきさ組担任） 日記

五月五日の「こどもの日」にちなんで、全園児で『こどもの日お祝い集会』を行いました。かぶとを被り嬉しそうに園庭に集まって来た子どもたち。今から始まる集会に、ワクワクドキドキ、胸を膨らませている様子でした。集会の中では、クイズをしながら由来の話の聞いたり、こいのぼりを眺めながら、「こいのぼり」の歌を元気いっぱい歌ったりしました。また、三チームに分かれての「こいのぼり玉入れ」では、こいのぼりの口に向かって、懸命に玉を投げる姿が見られ、友だちと一緒に、体を動かして楽しんでいました。最後は「これからも、元気に大きくなりますように…」の願いを込めながら「こいのぼりトンネル」をくぐりました。帰りには、お土産の柏餅をもらい、とても満足そうな子どもたちでした。（五月一日）



「七十四名の子どもたち」

園長日記

卒園式では、全員の子どもたちがステージで一人ずつ、自分の夢や幼稚園での思い出を発表しました。「サッカードの選手になりたい」「お泊り保育が楽しかった」「えのくま幼稚園が楽しかった」「プリキュアになりたい」など様々な発表がありました。言い終えて卒園証書を受け取る子どもたちの表情は、とても明るく輝いていました。

子どもたちの中に、大勢の人の前では、大変に緊張し、リハーサルを何度重ねてもどうしても発表できず、涙を流す子もいましたので、卒園式では、先生達はその子たちが上手く発表できるか心配していました。ところが本番では、今までのことが嘘のように、堂々と大きな声で発表できました。その瞬間、思わず涙を流す先生もいました。卒園式は、子どもたちとの最後の教育行事です。「七十四名の子どもたち」と教職員、そして卒園証書を受け取る子どもたち一人ひとりに最後まで拍手を送ってくれた保護者の皆様と力を合わせた感動的な卒園式となりました。

(三月十八日)



「終業式でのチャレンジ」

園長日記

三学期終業式で、子どもたちに進級したら色んなことにチャレンジしなさいよと話をすると、とても元気な返事が返ってきた。では実際にやってみようよと竹馬や卒園式での年長さん達の発表を年中さんや年少さんもやれるかなと、少し挑発気味に呼びかけてみた。

竹馬は年中のAちゃんがステージ上で、模範演技をし、その後、来年度採用予定の山田恵先生が竹馬の乗り方を指導した。竹馬が苦手な子が多く、子どもたちは食い入るように話を聞いていた。発表も、多くの子どもが手を上げ志願した。指名されステージに上がった数名の子は、さすがに緊張し、言葉が出にくかったが、それでも年少児を含めて全員が発表できた。子どもたちと山田恵先生の「終業式でのチャレンジ」であった。

(三月二十日)

「平成二十六年年度始業式」

田島 嘉織 (年長つき組担任) 週案日誌より

いよいよ年長組としての一年間がスタートした。子どもたちは緊張していたり、どこかソワソワして落ち着かない様子だったり・・・と、新年度ならではの表情を見せてくれていた。引越の際には、不安そうな顔をする子もいたが、自分の荷物はしっかり持って移動し、その姿がたくましかった。担任として教室に入ると、嬉しそうに笑ったり、拍手してくれ、子どもたちとの出会いに、とてもわくわくした。新しい名札、帽子、お便り帳・・・どれも大事そうにして、その姿が微笑ましかった。始業式にも、落ち着いた雰囲気に参加出来ていた。

(四月八日)

「一学期始業式」

園長日記

始業式で子どもたちに呼びかけてみました。「えのくま幼稚園がずいぶん変わったけれど、わかるかな」子どもたちの声を聞きながら一緒に確かめました。

①年中さんに「わかば組」ができたよ。名札の色は緑だよ。

②職員室が模様替えされて雰囲気が変わったよ。

③新しい先生達が来られたよ、武生香里先生が戻ってくれたよ。

④ホールで絵本が読めるようになったよ。

⑤教室の位置が変わり、年中さん達は二階の四教室、年長さんは新園舎だよ。

目を輝かして聞いている可愛らしい子どもたちに、進級の喜びや新しい担任やお友達との出会いへの期待、そしてこれからの学びや遊びへの意欲を高めるのが「一学期始業式」です。子どもたち、がんばれよ。

(四月八日)

「1年間よろしく願います！」

松原 はる菜（年長ほし組担任） 日記

年少組で受け持った子どもたちとの1年ぶりの再会。私の頭の中では、子どもたちの印象が年少児のイメージで止まっていたので、久しぶりの子どもたちの姿はとても頼もしく成長したように見え、一つひとつの姿が新鮮でした。これから初めての行事や園外保育などが盛りだくさんですが、子どもたちと一緒に楽しみながら、色んな経験・体験を通して成長していけるようにかかわっていききたいと思います。
（四月八日）

「みんながドキドキの新学期！」

山住 静香（年中そら組担任） 日記

今年度、年中組さんの担任をさせていただくことになりました。二年連続で年長さんと一緒に過ごしてきた私は、久しぶりの年中さんの担任ということに、新鮮さと楽しさと戸惑いで毎日、ドキドキわくわくしています♪一生懸命、初めての園生活に慣れようとする新入園児さん。新しいお友だちに、優しく色んなことを教えてあげようとする進級児さん。子どもたちそれぞれの表情や姿を見ることができて、本当に私は幸せだなあと感じています。これから、たくさんのお園行事や活動を通して、子どもたちの、さまざまな表情を見られるようかかわっていききたいと思います。また、保護者の方にも、その姿を見ていただきたいと思しますので、一年間、どうぞよろしく願います。
（四月九日）

「一年振りの復帰」

武生 香里（年長なぎさ組担任） 日記

四月八日（火）、始業式。この日を人一倍、ドキドキした気持ちで迎えました。一年振りに会う子どもたちは、身長も伸び、顔つきもすっかり、お兄さん・お姉さんになっており、その成長ぶりに、ただ、ただ驚かされました。それと同時に、これから、また、一緒に過ごせることを実感し、改めて嬉しく思いました。一年振りの復帰ということで、不安もあったのですが、以前と変わらず、温かく迎えてくれた、子どもたち、保護者の方々、先生方には、本当に感謝の気持ちで、いっぱいです。これから、また、よろしく願います。
（四月九日）

「春見つけ、大分川土手さんぽ」



山住 静香（年中そら組担任） 日記

年中・年長組の進級児は、大分川沿いの土手のお散歩に出かけました。子どもたちは、真新しいカラー帽子を被って、同じクラスのお友だちと手を繋ぎ、どきどきわくわくしながら幼稚園を出発！土手に着くと、暖かな春の心地よさを感じながら、お友だちと一緒に草花を観察し、こたりのさえずりや川のせせらぎに耳を傾けていました。「ホ～ホケキョって聞こえた！春が来たよって言うてるのかなあ？」と可愛らしい言葉が聞かれたり、春を感じて、歌をうたったりする子どももいました。「時間のお散歩から戻った後は、お家の方が作ってくれたお弁当をいただきました。たくさん歩いて春を感じたあとのお弁当は格別で、とってもおいしそうに食べる姿が見られました。
（四月十日）

「えのくま幼稚園 入園式」

松本 美香（年少はな組担任） 日記

十四日（月）、平成二十六年入園式を行い、今年度は百十名の新入園児を迎えました。真新しい園服を着て、ピカピカのカバンを持って登園する姿は、とても微笑ましかったです。入園式の中では、園長先生や来賓の先生方から「これからえのくま幼稚園でいっぱい遊んで楽しく過ごしましょう」とお話があり、元氣よくお返事をしてくれました！その後は、年長児が「みんなが来るのを待ってたよ！分からないことがあったら何でも聞いてね♪」と『お迎えの言葉』を言ってくれました。

新入園児を迎え、いよいよ全園児二百六十一名での園生活がスタートしました。子どもたちが元気に大きく育つことができるよう職員一同、心を込めて温かくかわわつていきたいと思えます。

(四月十四日)



「恵理奈先生と年少ひかり組の一週間」

庄 恵理奈 (年少ひかり組担任) 週案日誌より

二十歳の新任、恵理奈先生とひかり組の様子を週案日誌より紹介します。

☆四月十四日(月)「入園式」

ひかり組には二十三名の子どもたちが入園して来た。受付では泣いたり、嫌がる様子もなく、入園式でもほとんどの子どもが椅子に座って参加出来ていた。クラス活動では、玩具で遊び騒いでしまう様子も見られ、もう少し配慮するべきだったと反省した。しかし、問いかけに明るく返答してくれて安心した。

☆四月十五日(火)「園内めぐり」

年長児と手をつないで園内めぐりをしたが、嫌がったり他の事に興味を向いたりすることなく話を聞く姿が見られた。また、一日を通して「ママがいい!」と泣いてしまう子どもが多かったので、これから気持ちにきちんと寄り添い、楽しく過ごせるよう関わってきたい。

☆四月十六日(水)「園庭めぐり」

園庭めぐりでは、説明を聞く事に集中が向かず、他の遊具に行ってしまう子どもが何人かいた。声をかけながら移動すると、しつかり付いて来てくれるので、これからは全体の様子を見ながら活動をしていきたいと思った。

☆四月十七日(木)「幼稚園の生活を知ろう」

道具箱や園服についてなど、話を聞く時間が長いので、教室にあるペットを使って話をすると、全員が椅子にきちんと座って話を聞いていた。また時間があったので読み聞かせをした。一冊目は集中して聞いていたが、二冊目になると動き回る子どももいた。少しずつだが泣く姿も減り、慣れてきた様子が見られた。

☆四月十八日(金)「ふれあい遊び」

子どもたちも少しずつ園生活に慣れ、おたより帳にシールを貼ろうとしたり、園服をたためるとする姿が見られるようになってきた。「あくしゅでこんにちは」では、友だちと握手するとう関わりは難しそうだったが、リズムに合わせて動くことを楽しんでた。少しずつ友だちと関わる機会も増やしていきたいと思う。

☆四月十九日(土)「自由登園日」

自由登園日では、四人が欠席し少し淋しい感じもしたが、一人ひとりにゆっくり関わる事ができた。点呼では声をかけると、しつかりテラスに座り、集まる事ができた。また、異年齢児と遊ぶ姿が見られ安心した。まだ友だちと関わる事ができない子どもには、声をかけながら寄り添い関わっていきたい。

「笑顔の日々」



末田 祥子 (年少ゆき組担任) 日記

年少組の担任として、新年度がスタートしました。一日一日、園生活の流れや仕方をどんどん覚えていく早さには驚かされます。「ママ来てー」から「ママ帰っていいよ!」にかわる姿は、見ていて頼もしいです。登園時、子どもが笑顔で手を振ると保護者の方も笑顔になり、教師も笑顔になります。連休明けや夏休み明けが今から恐ろしいですが、しつかりと気持ちを受け止めながら、みんなが笑顔で過ごせる日々でありたいと思います。(四月十五日)

「小さな年少さん」

松本 美香（年少はな組担任） 日記

昨年度、年長さんを送り出してから、久しぶりに年少さんを担任することになりました。小学校前の年長さんは、体も大きく出来ることも多かったので、小さな年少さんと接すると本当に可愛らしく思う事がたくさんあります。まだまだ出来ないことも多くありますが、これから一緒に生活していく中で色々経験し、大きく成長していつてほしいと思います。元氣いっぱい年少さんに負けないように頑張ります！

（四月十六日）

「おかあさん、どこにいるの」

園長日記

登園初日の園バスで年少さんの男の子が大泣きしながら「おかあさん、どこにいるの、どこにいるの」と一時間の乗車時間中に数百回繰り返しました。「お母さんは、お家にいるよ。帰りを待っていてくれるよ」と十数回伝えましたが、全く効果なし。大泣き状態で園に到着したのでクラスでどうだったのか大変心配しましたが、担任の話では、泣く事もなく他の子ども達と楽しそうに遊んでいたとのことでした。

車中の大泣きの声が強烈に耳に残っていただけに、ギャップの大きさに驚かされるとともに、大きな試練を乗り越えていく子ども達の力に改めて感心しました。職員打ち合わせの会で、こうした子ども達の姿が多く報告されます。案外、大泣きは試練を乗り越えるための子どもなりの懸命なチャレンジで、気分転換にもなっているのかなと思います。（四月十六日）



「年長組さん」

林 裕美子（年中ことり組担任） 日記

去年、年中組だった子ども達が、ちらり（にやり）と見ながら通り過ぎたり、とん！と背中をたたいて逃げていたりすることがあります。「元気でやってるよ！」と伝えたいのか、ちょっぴりなつかしく思うのか…。そんな中、三時帰りの午後に、力いっぱい遊んでいる年長組を見ると、本当に大きな成長を感じ、うれしくなりました。これからの一年間、えのくま幼稚園の顔として、活躍を期待していますよ！

（四月十六日）

『感謝』の幕開け」

二宮 博美（年少はな組保護者） 日記

「ママがいろいろ！」園での別れ際に泣き叫ぶのが息子の日課。こんな姿を見るにつけ、我が子を一層愛おしく感じます。涙をためて靴を履く姿もかわいい。着たばかりの園服に泥んこを付けてしまってもかわいい・・・ずっと一緒にいると忘れかけてしまうこの気持ちを思い出させてもらえて、まるで母の為に幼稚園が存在するかの様に思えてきます。

上の姉二人も通ったえのくま幼稚園に、丸一年空けて、この春、我が家の末子が入園しました。「週日より」を受け取るのも久々です。様式も以前と変わらず、懐かしさを感じながら読んでいると「進化」を発見。一番下に担任の先生からのメッセージが添えられていました。クラス毎に先生が心を込めて作って下さっているんですね。お世話になって足かけ六年、この間に園の「進化」、即ち先生方の「もつと良くしていこう」という工夫や頑張りに折々触れてきました。先生方の熱心な姿勢、本当にありがたく思います。

感謝のお返しとして、息子が笑顔で「おはようございます」と言えるように親子で気長に頑張りますので、よろしく願います。

（四月十七日）

「雨が降ったら紙芝居」

紙芝居のお爺さん日記

入園式のあった翌週の月曜日は小雨であった。朝バス桃太郎から降りて園舎に戻ると多くの子ども達が「園長せんせい、雨がふってるよ、かみしばい」と言ってきた。「時計の長い針が四のところ（九時二十分）になったら始めるから少しまってよ」と伝えた。

「雨が降ったら紙芝居」が五年目に入った。園庭で遊べない子ども達に、雨降りでも喜んでもらえるものがあつたらと思つて始めた紙芝居である。小さなお客さんの反応はストレートで、楽しい紙芝居は反応がすこぶる良いが、逆もある。本日は岩武まどか先生が放送で呼び掛けてくれたこともあつて、園長室に入りきれず急遽、2Fホールで百名以上のお客さんを前に、「おおきく おおきく おおきくなあれ」など二話の読み切りであつた。子ども達待つててくれてありがとう。
(四月二十一日)



「強いご縁」

中村 陽子（年少ひかり組保護者）日記

えのくま幼稚園とのご縁は、四年前に長女が年少のひかり組に入園した時に始まりました。長女の初めての集団生活、私が双子出産のための長期入院も重なり、長女以上に私達両親が不安であつたのを思い出します。そのような不安を解消していただき、とても愛情深く楽しい思い出を作つて頂いたのは担任の祥子先生でした。

残念ながら主人の転勤で九ヶ月で園を離れる事になりましたが、その時、双子もえのくま幼稚園に入園させたいと思つたのを思い出します。そして、この四月から再びえのくま幼稚園とのご縁が始まりました。重ねて長女が過ごした同じ教室、同じひかり組に双子が通うことに強いご縁を感じています。

これから園で過ごす三年間を通じ、双子が健やかに伸び伸びと成長することを楽しみにすると共に、我々家族も大きく成長していきたいと思ひます。
(四月二十二日)

「新しい発見」

岩武まどか（全クラスサポート教員）日記

私が先生になつて一か月が経とうとしています。子どもに「まどか先生〜！」と呼ばれるたびに私の名前を覚えてくれたのだと嬉しい気持ちになります。私も子どもに負けないように子どもたちの名前や性格、好きな遊びなど、どんどん発見して吸収しようとしています。これがなかなか難しいです。子ども的人数が今年度でさらに多くなり、まだまだ話したり、一緒に遊んだことがない子どももいます。でも、今だからこそ、まだ知らない子どもたちの新しい発見が出来るので、これからは楽しみにしていきたいと思ひます。今日はどんな新しい発見があるのかな？
(四月二十三日)



「年少さん、かわいい」

田島 嘉織（年長つき組担任）日記

年長組に進級し、子どもたちからは「一番大きいお兄さんお姉さんになった！小さいお友だちのお世話をしてあげなくちゃ！」と元気な言葉が聞かれています。

年少組の教室に、降園準備のお手伝いに行つた時のこと。ちよっぴり戸惑いながらも一生懸命お世話をする、つき組の子どもたち。お手伝いを終えると、年少さんからの「ありがとう」の言葉に、満足した表情でした。教室に戻つた子どもたちが、「年少さん、可愛かつたな」と一言。私が、年長組の子どもたちと出会つたのは、二年前。思い返すと、今の年少さんのように、お兄さんお姉さんから、たくさんお世話してもらつていた子どもたちでした。出会つた頃はあどけなかつた子どもたちの、小さいお友だちを優しく思いやる気持ちに触れ、心の成長を感じ、嬉しく思ひました。
(四月二十三日)

「こいのぼり」

山田 恵（年中にし組担任） 日記

「ほら、見て！こいのぼりさん、気持ち良さそうだねえ。」たぶん、がんばれーっついでいいよんよ！」こいのぼり製作の日の朝、風になびく園庭のこいのぼりを指さしながら子どもたちが口々に言います。いざ製作に入ると、のりをつける量や目を貼る位置に苦戦し、ああでもない、こうでもないと言っていると首を傾げたり、『こいのぼり』の歌を口ずさんだりしながら、自分だけのオリジナルこいのぼりを一生懸命作る姿がありました。その日の帰りのバスでは、「夜も幼稚園のこいのぼりはお外で泳いでるのかなあ。」「明日も幼稚園行ったらこいのぼりあがってるかなあ。」とかわいっつぷやき。

綺麗な水の中だけでなく、泥水の中でも、沼の中でも生きていけると言われる鯉のように、雨の日も風の強い日も、子どもたちが毎日元気に幼稚園に来てくれますように！

（四月二十三日）

「大きい玉ねぎとったよ〜！」

山住 静香（年中そら組担任） 日記

四月二十四日（木）、年中組は幼稚園の裏にある畑、『えのくまファーム』で玉ねぎの収穫を行いました。この玉ねぎは、進級児が年少の頃から育ててきた玉ねぎで、畑で大きくなつた姿にとても喜んでいました。また、新入園児は、初めて見る様子にとても興味津々で、玉ねぎを観察したり、においをかいで見たりする姿が見られました。大きさもさまざまで、両手に玉ねぎを持って、「大きい玉ねぎと、赤ちゃん玉ねぎをとったよ！」と嬉しそうにする子どもたちがたくさんいました。

収穫した玉ねぎは、一日天日干しして、翌日持ち帰りました。ご家庭で、どんなお料理に変身してみんなのパワーに変身したかな？これからも、野菜に興味を持ち、収穫する喜びを味わえるようにしたいと思います。

（四月二十四日）



「ママへのお土産」

園長日記

年中さん達が昨年の十一月月上旬に植えた玉ネギが大きく育ち、収穫の日を迎えました。「えのくまファーム」に年中さん全員を集め、小さな玉ネギ苗を植えた時を思い返したり、バスの先生達が雑草を取ってくれたお陰で玉ネギさん達が大きく育つたことも先生達が伝えました。

先生達のお話を真剣に聞いていた子どもたちは、ニクラスずつ畑に入り、並んで一斉に玉ネギを引き抜きました。初めての体験で、しかもかなり大きな玉ネギが引き抜けたので、子どもたちは大喜びし大歓声が上がりました。「えんちよう先生、見て、おっきいよ」の声がいرونな所から聞こえてきました。「ママのおみやげに、持って帰るんだぞ、ママ喜ぶぞ」と伝えると、どの子どもも嬉しそうに目を輝かしました。

（四月二十四日）

「だって年中さんだもん」

石野 博美（年中わかば組 担任） 日記

新年度が始まって、約二週間が経過しました。新入園児さんにとつては何もかもが初めての事ばかり…。朝は涙を溜めて登園する姿が見られましたが、日を追う毎に、笑顔が見られるようになってきました。最近では、「ひろみ先生、おはよう！一緒に遊ぼう」と遊びに誘ってくれるようになり嬉しい声が聞かれます。そんな中、進級児さんも新しい環境に少しの不安を感じ、時折、寂しそうな表情を浮かべる様子が見られました。新入園児さんとかかわりが増えてしまう中で、懸命に寂しい気持ちを抑え頑張る姿に、申し訳なさとしさを感ずります。時間を見つけて話をすると「大丈夫、寂しくないよ。だって年中さんやもん！」と頼

もしい言葉が返ってきました。強い言葉の中にも、やはり寂しさを感じている気持ちが伝わり、ギョッと抱きしめたくなる瞬間でした。一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、一日でも早くクラス全員が楽しく園生活を送れるようにかかわっていききたいと思います。

(四月二十五日)

「まどか先生をよろしく」

波多野 幸子(教頭・副園長) 日記

四月のどーなつクラブは、プチを含めての三日間、新任のまどか先生と行いました。三月末で川田美香先生が退職され、多くのお母様方の惜しむ声が聞かれ淋しい思いで一杯でしたが、親子ほど年の違う若い先生と仕事ができることに、わくわくしています。

まどか先生の初デビューはプチの日。小さな子どもたちを前に、一所懸命ペーパーサートを演じましたが反応はイマイチ。私たちの緊張が伝わったのかな？それでも、子どもたちの目はしっかりとまどか先生に向いていました。

どーなつクラブは、みんなで輪になり、親子のふれあいを大いに楽しんでもらうこと、そして、集団での遊びを経験する初めの一步を踏み出す場となることを願っています。

ぶどうが大好きだった美香先生と同様、ハンバーグが大好きな肉食系まどか先生を(見た目は草食系...)をよろしくお願いします。

(四月二十五日)

「兜かぶり元気いっぱい」

毎日新聞記事(佐野記者)より

こどもの日(5日)を前に、元気にすくすく育ってほしいとの思いを込めて、大分市荏隈の「えのくま幼稚園」で1日、「こどもの日お祝い集会」があった。年少から年長まで園児約260人が参加し、オリジナルの紙兜をかぶってこいのぼりに玉入れしたり、こいのぼりのトンネルをくぐったりして元気いっぱい楽しんだ。村山正幸園長は「いろんな行事に楽しみながら触れ合うのは良い教育。日本の伝統や文化に親しみ、いろんな体験を通じて成長する」と目を細めた。

なぎさ組の能丸拓翔君(6)は「うまく玉入れできた」、宮崎りこちゃん(5)は「こいのぼりのトンネルが楽しかった。将来はアイドルになりたい」と夢を語った。ほし組の森春樹君(5)は「ジャングルジムで遊ぶのが好き」と話し、つき組の松田佳将君(6)は「7個ぐらい玉入れできた。サッカー選手になりたい」と目を輝かせた。

(五月二日朝刊)

